

千葉県議会議員（流山選挙区） **小宮 清子**



高校を卒業してから47年。60才を過ぎた頃からクラス会が始まり、今では年一回顔を合わせています。

高校は1年から3年までクラス替えなし、男子37名・女子15名のクラスでした。当時の入試は男子・女子別枠で行われ、もともと府立5中という男子校でしたので、3年間男子の多い学生生活でした。掃除当番なのに掃除ぎらいな男子が逃げたり、生物や化学の実験では男子は実験、女子はレポート係にさせられたりと、高校生ながらに役割分担意識があったように思います。

いそがしい現役時代がすぎ、第一線をしりぞいた男子、子育てもおわり一息ついた女子、お互い時間の余裕ができたところでクラス会となったのでしょう。頭のうすくなった人、肥満となった人、変わらない人それぞれが歩んできた人生は山坂があっても、会えばすぐに昔にもどれるのです。しかし、すでに亡くなった人、どうしても居所のわからない人、闘病中の人もあります。クラス会はお互いの近況報告をしますが、私に向けられた質問は「どうしたら議員になれるの?」とか「選挙ってどうやるの」とかまじめに聞かれました。何て答えたか覚えていませんが、その気になれば、だれでもやれる、当選するかしないかはやってみなければわからないと答えにならないようなことを言ったかもしれません。

クラス会の話しの中で多いのは自分自身の健康のことそして、親の介護のこと、子どもが結婚しないことです。

特に女子は親の介護のため転居したり、一時実家に帰ってきた人もいて、私達の年代60代半ばは親の介護は女性の役割からぬけだしていません。

そんななか「女子会クラス版」をやろうという話しがもち上がったのです。いつどんな時間帯でという話しになった時、親がデイサービスに行っている昼間ならということでランチタイムに決まったのです。親の介護第一という状況におかれている人が15人中複数人。女子会ランチタイムはもり上がったのですが、親がデイサービスから帰ってくる時間までには帰宅しなくてはという友人の姿に介護の現実をつきつけられました。

さて、私自身はどうかというと98才の夫の母と同居して40年になります。なんとか自分のことは自分でやるということでおばあちゃんは頑張ってくれています。昨年要介護1からなんと要支援2になったのですが、歩きっぷりはますますあやしげになってきています。実家の母89才は昨年入院をくり返し体力・気力もめっきりおとろえ、要支援2から要介護1になってしまいました。現在、一人暮らしで週2回ヘルパーさんに来てもらう生活をしています。今のところ通院する時つきそうくらいでいいのですが、もっと具合が悪くなったらと思うと、家にいたいという母の希望をかなえられるのかわかりません。介護の現実がもう目の前にせまってきています。介護をめぐる介護離職、介護難民、介護虐待、介護のさたも金しい等しい言葉はきかれません。しかし、介護に頑張っている家族の方を私は多く知っています。

いよいよ親の介護が我が身となり、やがては我が身が介護を受ける日も遠からずやってきます。身体がきかなくなっても、認知症になっても最後まで人間らしく生きぬきたいと強く思うこの頃です。